

# ワーキング ヴォイス



NO. 25 2011 年 3 月 15 日

今号では、「自分のくらしを見直し、自分らしい豊かなくらしを営む活動」として、1996 年 1 月より愛媛県労働者福祉協議会（以下、労福協）が、愛媛県生活協同組合連合会（以下、生協連）と共同で取り組んできた家計調査活動について紹介します。愛媛の勤労者の生活実態と、より良い生活を送るため生活設計を立てるための意義等についてお伝えしていきます。

共同家計調査活動の際、調査・報告等の各分野で関わっていただいた生協連の元理事である丹左杜子さんから、取り組みの経緯や調査結果から見てきたことなどについて、お話を伺いました。

## Q 1 . 生協連の「生計費調査」のスタート時の状況及び、生協連と労福協とが「生計費調査」を共同で始めた経緯を教えてください。

当「生計費調査」はもともとは、1986 年から家計簿記帳活動を普及させる運動をスタートさせたことが最初の動機となっています。

組合員の人たちは何を求めて生協に入るかというと、食の安全を求めて入る人が多くありました。くらしがきちんとなっていないと、食も整わないですから、組合員が生協でどのぐらいのものを購入しているのか、また組合員にとってもひと月に食費がどのくらいかかるかを知ってもらい、我が家の暮らしを把握するきっかけにしてもらおうと、11 月の 1 か月だけ記帳してもらう運動に 10 年間取り組みました。

そして 1996 年から労福協と共同での調査活動となりました。それまでは、組合員・モニター個人（生活者）がよりよい生活づくりのために進めた運動でしたが、労福協と共同でより広くデータを収集し調査することで「県内の実態生計費を継続的に調査し、各世代の家計の特徴と課題、および生活変化と問題点をとらえるためのデータを作成しよう」とスタートしました。生活者を取り巻く環境改善していくための材料「社会的な発言として活用しよう」ということに力点を置いたと言えます。



## Q 2 . 具体的には、調査結果をどのように活用されていましたか？

生活問題や労働問題等を考えるときに、何の根拠もなく検討はできません。そういう意味では家計簿は数字でくらしを如実に語るものです。

全国でも家計調査結果は出ていますが、やはり全国調査なので愛媛のくらしと比べて実感がない部分があります。愛媛で家計調査をす

るということの意味は、そのデータから愛媛の特徴が見えるということで、この家計簿の数字が「愛媛を考える・変えるための一つの裏付け資料」として活用してもらいたいと思い、生協連の理事会では毎月報告をしたり、日銀のアドバイザーとして助言したりしていました。

### Q3. 調査から見てきたことで、どうになりましたか？

家計簿を1年間記帳した人は、「非消費支出」（社会保険料、所得税、住民税、固定資産税等）が非常に大きいことに驚きます。税金にいくら払っているかを知ること、税金がどのように使われているのかに関心を持つことに繋がります。また、教育費や介護にお金がかかることが分かってきました。

年金の受給額も減ってきており、介護保険制度が導入されてからは、天引きで保険料を持って行かれるため自由に使えるお金である可処分所得（収入から非消費支出を引いたお金）は年々下がってきています。

また、自分の暮らしだけでなく、世の中全体の動きを把握しておく必要があり、それらの対比をすることで、世の中の変化に対応するための見直しもできます。動かせるお金と動かせないお金をつかむことで、節約もできます。

また、3大支出である教育費、住宅費、老後の資金をしっかりとおさえ、家計簿をつけなが

ら生涯設計をたてることができます。

例えば、住宅に関して言えば、かつては一戸建てを持つことは勤労者にとっての夢でした。しかし、建物（家屋）の価値は20～25年でゼロになり、維持費がかかるだけになってしまいますし、また以前は退職金の大部分を住宅ローンの返済に充てることもありましたが、現在は退職金も少なくなっていて、退職時に住宅ローンを払い終えることが難しくなる傾向にあります。

とはいえながらも、老後に家を担保に福祉施設に入ったり、月々の家賃をグループホームの毎月の利用料に充てたりといったこともあるので、マイホームを持つ・持たないは各人の生き方・考え方の一つでしょう。

言いたいのは、将来の見通しの中で、生活設計をたてる必要があること。その見通しを立てる我が家の基本資料が家計簿であることです。

それらを近年は講演等で広めていきました。



#### 家計の推移（グラフ）とモニターさんの声です



#### 食費

主婦が唯一自由裁量でお金を変えられるところなので、景気が悪くなるほど倹約をし、食費が下がっていきます。

1996年には、1世帯（4人家族）当たり月平均66,000円くらいでしたが、2010年は56,000円に減少しており、常に食費を倹約する工夫をしています。

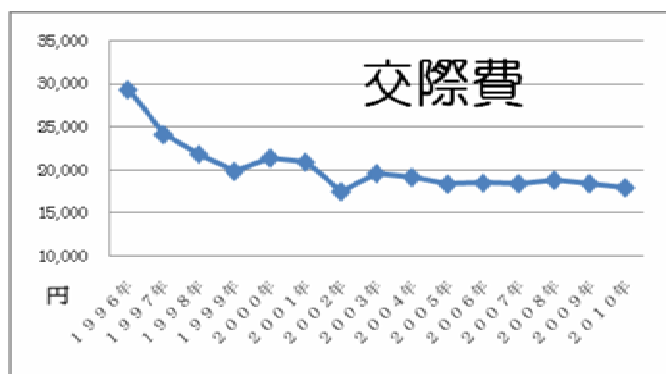


値上がりするものばかり、特に光熱費、ガソリン。これは食費節約しかないと思い、1日いくらと月予算を29日で割り、さらに一週間集計後に、残り予算を残り日数で割り、1日いくらに変更！と週毎に予算を変化させた。おかげで予算の86%に収めた。

(2008年:65歳)

今月は食費を3万円台でおさえられました。工夫をした点は特にないのですが、子供と買い物に行っていたときは、お菓子等のよけいなものまで買わされた気がして今は一人で行くようにしています。また、おやつは手づくりにしてコストを下げました。

(2010年:29歳)



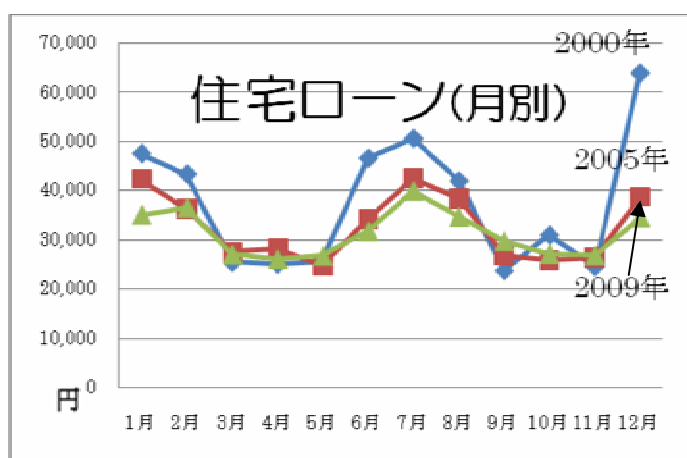
## 交際費



交際費は、ずっと横ばい状態です。  
モニターの声を見ても、相手があること  
なので抑えることが難しいようです。

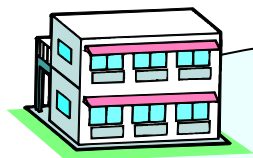
1月はお年玉や帰省のお土産代、祖父母の誕生日祝いなどのために臨時の支出が大きかったです。毎年出していると気付きにくいけど、行事費はボーナスのおかげでまわっていると実感します。食費もそれなりのおせちや外食のため予算オーバーとなり反省材料でした。寒いとついついおやつ・飲み物代もかさみます。

(2006年:46歳)



## 住宅ローン(月別)

2000年の月平均額は37,526円、2005年の月平均額は32,743円、2009年の月平均額は31,470円です。月別に見ると、夏季・年末賞与の時期とみられる7月、12月の額が突出していることが分かりますが、2000年～2005年～2009年で、その額は減少してきています。不況等の影響により、賞与削減等が行われ、ボーナス払いが当てにならなくなってきていることが、その要因として考えられます。



今月は住宅ローンのボーナス払い、このところ不況でボーナスがカットされている。ローンのボーナス払いもなるべく、月々積み立てでカバーしないとなぁと思っている。

(2008年:33歳)



## 通信費



かつては、「一家に一台の電話」の時代でした。記録を始めたのは2002年からですが、携帯やパソコンの普及で年々通信費が増加しており、今後もますます上昇する傾向にあります。

今月に入って夫婦共々携帯を変え、着ウタやコミックなどを楽しんでいたら月末の請求書を見て驚いた。何と家賃の2倍近く…。みなさんもポケット通信料には十分気をつけて下さい。

(2007年:32歳)

### その他、非消費支出等

1月から3月の消費税と比べると今月(4月)の消費税の大きさにびっくりします。たった2%といってもあなどれません。今まで消費税を取らなかった店でも軒並み5%取り出したのも一因だと思う

(1997年:35歳)

非消費支出合計が、収入の4分の1をしめているのがショックです。残業を頑張ってもその分所得税が増え、頑張った分、損をする気がします。住みにくい世の中です。将来が不安になります。家族を増やしたいけど今がいっぱいいっぱいだなぁ。

(2006年:37歳)



### Q4. 最後に読者の皆さんにメッセージをお願いします。

買い物をする際は、商品の表示をきちっと見て、安全か、本当に必要かを確認めるといいと思います。また、家計簿は人生の生活設計を立てる基礎データになりますので、自分でしっかりと把握する必要があると言えます。

今、何をするにも金銭のやり取りが必要な時代になっています。現在年金をもらっている人は経済的・時間的にも大丈夫かもしれませんが、近い将来年金を受け取るという方は、年金制度

が不安定な時代なので、見通しが立ちにくいという不安もあると思います。教育費は将来への投資と思ってはどうでしょう。それから老後の資金の計画をしっかりと持つことをお勧めします。

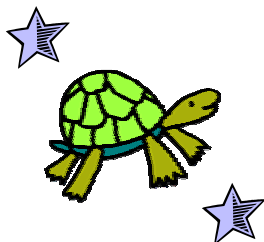
人生には、「経済」と「健康」が必要です。安心していただける「居場所」と、生きがいを感じられる「行き場所」、そして年齢を問わず、お互いに活用可能な「貯人通帳」を持ちましょう。

### この度、家計簿調査の取り組みが変更されました！



- (1) 日本生協連の家計集計システムを活用して、モニターさんが自宅パソコンからデータ入力するスタイルに変更します
- (2) 家計活動の目的を「くらしの知恵をつむぐ」「くらしの知恵を分かち合う」「くらしの実態を社会に発信する」に設定し、自らが蓄積されるデータを活用し「くらしを見直す」こと、家計コミュニティシステムを活用して交流を図ることになりました。

モニターさんの声は、「愛媛の家計 家計調査報告書」から抜粋しました。



愛媛県委託事業：(平成22年度 労働者の声発信事業)  
発 行：社団法人 愛媛県労働者福祉協議会  
〒790-0066 松山市宮田町125番地 愛媛県労福協会館3階  
TEL 089-946-2296 FAX 089-947-5616  
メールアドレス e-roufuku@leo.e-catv.ne.jp

